CCBJニュースレター　第127号
2025年3月28日

会員の皆様、

シュラスコ料理店Churrascaria Quebom 新虎通りCORE店で開催された新年会にお集まりいただきました皆様に感謝申し上げます。

今後開催予定のCCBJのその他のイベントにつきましては近日中に発表します。

今月号では、バンダ・マンダカリーニョのリーダー八木美楠子氏にブラジル音楽が日本人に好まれる理由についてご寄稿いただきました。

そのほかにも、ブラジル産牛肉の日本市場産参入交渉などを目的としたルーラ大統領の訪日や、4月13日開幕予定の大阪万博のブラジルパビリオン、ブラジル製造業の売上増についての記事も掲載しましたので、是非ご覧ください。

どうぞよろしくお願いします。

CCBJ会頭
行徳セルソ
****

(寄稿)

日本でブラジル音楽

バンダ・マンダカリーニョ
リーダー八木美楠子氏

ブラジル人の友達が日本に来た時、カフェや商業施設のBGMとして流れているのがブラジル音楽だ！と驚くことがよくあります。
ブラジルよりも沢山、ブラジル音楽が聴こえる！って。
何故日本人はこんなにブラジル音楽が好きなのでしょう？

日本にブラジル音楽が入ってきた当初は、セルジオメンデスが演奏するMasque nadaだったり、ゲッツ/ジルベルトのアルバムでアシュトラッド・ジルベルトが歌うGirl from Ipanemaだったり、アメリカ経由で日本に入ってくることが多かったと思います。

渡辺貞夫さんなどのジャズの大御所も早々とブラジル音楽の魅力にハマり、ブラジルに行ってレコーディングをしています。また、全くサンバではないのですが（！）歌謡曲の分野でも古くは「てんとう虫のサンバ」、20年くらい前には「マツケンサンバ」が大流行りしました。

「陽気」で「明るい」サンバ、「オシャレ」で「癒し」のボサノバという、音楽そのものの特徴よりもその雰囲気が日本人に好かれていったのかもしれません。（全然悪い意味で書いてるわけではありませんので念のため！）

また、音楽から感じられる「サウダージ」と言われる感覚は、日本人の感受性とマッチしたのも一つの理由だと思います。

しかし、日本の一般大衆にボサノバを広めた１番の功労者は、やはり小野リサさん。

80年代の終わりに日本にいた方なら、彼女がテレビコマーシャルに登場してギターを弾きながら歌った曲＋姿を覚えている方も多いのではないでしょうか。
特にその頃の「アイドル」と言われる若い女性たちの喉を使った発声とは違う自然で語りかけるような歌い方と、それまで日本人が耳にしてきたギター

の弾き語りとは一線を画した弾き方に、驚き魅了された人が多かったと思います。

それまでアメリカ経由で入ってくることが主だったボサノバを、小野リサさんがブラジルから直で届けてくれた気がします。“Girl from Ipanema”ではなく、”Garota de Ipanema”が届いた。みたいな。

小野リサさんは、お父さんがサンパウロにお店を持っていた時代に生まれたそうです。帰国した後、お父さんが開いたのが四谷にあるサッシペレレ。（昔は都内にプラッサオンゼ、コルコバード、アカラジェ、サバス東京、エスペイトブラジル。。。ブラジル料理を提供するブラジル音楽のライブハウスが沢山ありましたが、当時から今もずっとあるのはサッシペレレだけ！）

私もサッシペレレでPaulinhoことPaulo Cesar Gomes と知り合いました。
Paulinhoは日本に本物のブラジル音楽を広めた重要人物の一人で、日本におけるブラジル音楽の歴史は、彼なしには語れません。

すばらしいピアニストで、その演奏を耳にしたハービー・ハンコックが「君の左手を僕にくれ！」と言ったくらい。ミナスジェライス州で生まれサンパウロで育ったPaulinhoは、20年以上日本に住んでいました。

J-popのバックやホテルでの演奏、もちろん小野リサさんなどのレコーディング、Minaswingなどのブラジルバンド。。。
大活躍のミュージシャンでした。

しかし、Paulinhoは2011年の春、悪性リンパ腫の診断を受け、闘病を始めました。
抗がん剤治療をしたもののすぐに再発。ブラジルから妹を呼んで骨髄移植もしたのですが、2012年の春、日本で亡くなってしまいました。
亡くなる少し前、もう眠っていることも多くなってきたある日、眠っているPaulinhoの手を握っていたら、Paulinhoがふと目を覚ましました。

ニコッと笑って、繋いでた手を離して、腕を伸ばして私の前髪を撫でながら「あのバンド、ずっと続けて。良い音楽いっぱい書いて。良いアレンジいっぱい書いて。ずっと、ずっと続けて」と言って、再び私の手を取って、手の甲にキスをしてくれました。病室では我慢していたけれど、病室を出た瞬間、声を出さないように気をつけながら、立っていられないほど泣きました。

「あのバンド」とPaulinhoが言ったのは、Banda Mandacarinho。2011年1月、Paulinhoと立ち上げた、17人編成のブラジル音楽のビッグバンドです。メンバーは首都圏に住む日本人はもちろん、ブラジル人、アメリカ人、キューバ人、カナダ人、オーストラリア人のスーパープレイヤーです。レパートリーはMilton Nascimento、Marcos Valle、DjavanなどMPB (Música Popular Brasileira) 中心に、PixinguinhaのショーロやJobimのボサノバも演奏しています。

中でもIvan LInsのレパートリーが多く、軽くCD 2 枚分以上。こんなにIvanの曲をやるビッグバンドは世界中で私たちだけだと思います (笑)

みなさまご存知の通り、Ivan Linsは世にも美しいバラードを沢山作曲しています。
ビッグバンドは大きな音でしょう？って思うかもしれませんが、私たちはピアニッシモも出せるビッグバンド。

そう。まさしくボサノバの歌のように、語りかけるような演奏もしています。

２枚目のアルバム“Luz Brasileira”では、敬愛するIvan Linsが 1 曲歌ってくれています！！！いつかIvanとライブをやりたいとずっと思っていますが、Ivanも今年80歳。そうそうのんびりもしていられません (笑)。

共演できるよう、スポンサー募集中です！！！

心が躍り出したり、きゅん。としたり。。。ブラジル音楽は心の深いところに届いて動かす魔法を持っています。私も日本人でありながら、そんなブラジル音楽にハマり続けている一人です。今年はブラジル日本友好130周年。Paulinhoの遺志を胸に、これからもステキなブラジル音楽を沢山お届けしていきます。

https://www.facebook.com/mandacarinho
http://mandacarinho.com/

****

（経済）

大阪万博のブラジルパビリオン

ブラジルは、4月13日から10月13日まで開催される大阪万博にブラジル投資貿易振興庁が運営するパビリオンを出展します。ブラジルパビリオンは施設そのものが一つの生体であるかのように設計されており、来場者も展示に参加できるようになっています。メイン展示室の床や天井は、人間の呼吸のリズムのように伸縮する84個の膨張式オブジェで飾られています。展示は5部構成で約20分続きます。各部のテーマと内容は以下の通り。

第1部「均衡」（白いオブジェが大地や森、人間、動物の調和を表現）
第2部「多様性」（ブラジルの多様性を鮮やかな色彩で演出）
第３部「都市化」（空間を交差するLED光線が、全てのものごとは関連し合っていることを表現）
第4部「破綻」（収縮するオブジェが環境破壊、社会の危機を表す）
第5部「希望」（雨音で周期の再生を示し、生命の復活が持続可能で革新的なブラジルを表現）

ホームページ：https://www.expo2025.or.jp/en/

出所： ApexBrasil

****

ブラジルの製造業　**1**月の売上げは**3.3%**増を記録

昨年と同様、ブラジルの製造業の実質売上高が増加を続けています。ブラジル全国工業連盟（CNI）が発表した鉱工業指標によると、1月の製造業企業の総売上高は12月と比較して3.3％増加しました。また、昨年1月との比較では12.8％増加しています。CNIの分析では、今回は好結果を記録したものの、今後は景気の減速が予想されるため、このペースを維持することは難しくなると見られています。
詳細はこちら： https://noticias.portaldaindustria.com.br/noticias/economia/faturamento-da-industria-cresce-33-em-janeiro-informa-cni/

出所：CNI

****

ルーラ大統領　訪日

ブラジルのルイス・イナシオ・ルーラ・ダ・シルヴァ大統領が国賓として今月24日に来日し28日まで日本に滞在しています。日本が国賓を迎えるのは2019年のトランプ米大統領以来。ブラジルの長の悲願である牛肉の日本への輸出解禁や、メルコスルと日本間の経済連携協定締結に向けた交渉が今回の訪日の目的です。

ブラジルにとって日本はアジアでは第2位（1位は中国）、世界では第11位の貿易相手国の位置を占めています。また日本には約20万人のブラジル人が在住しており、ブラジル国外で5番目に大きなブラジル人コミュニティを形成しています。日本の対ブラジル投資額は世界第9位で、2023年には前年比23％増の350億米ドルに達しています。

2024年5月、日本の岸田文雄前首相がブラジルを訪問した際、ルーラ大統領は日本の牛肉市場の解禁を強く求めました。日本は国内で消費する牛肉の約70％を輸入しており、その額は年間約40億米ドルに相当します。また輸入牛肉の80％は、米国産とオーストラリア産が占めています。ブラジル外務省によると、ブラジルは2005年以来、日本の牛肉市場への参入を試みているものの、未だ実現には至っていません。

出典：アジェンシア・ブラジル通信社